

専門学部を含む学部混成クラスを対象とした一般情報処理教育の実践（1）

1 X - 1

小笠原直人, 市川尚, 新井義和, 村山優子, 布川博士, 鈴木克明
岩手県立大学ソフトウェア情報学部

1 はじめに

岩手県立大学は4つの学部を持つ大学であり、その特色の一つに大学生活の多くの事柄がコンピュータとネットワークに基づく情報システムを基盤としていることがある。たとえば、学生の受講登録や休講通知等もコンピュータを用いて学生、教員自ら入力、閲覧するシステム（その実現のほとんどはDBMSを核としユーザインタフェースとしてWWWを用いている）となっている。

最新の情報技術を生活の基盤とした大学が増加するにつれ、全学部の学生が共通に受講する情報処理教育（以後一般情報処理教育）はこれまでのものとは違ったものが望まれる。すなわち、このような新しい情報技術を基にして今後の新しい一般情報処理教育の内容を模索し創造して行く必要がある。さらには、今後の高度な情報技術の進展を基盤としたより高度な情報化社会で生活するための基礎技術（特にマルチメディアを活用したコミュニケーション技術とコラボレーション技術）の習得とその理解ための教育内容を作り上げなければならない。

本大学では、一般情報処理教育を基礎的な能力を養うための基礎科目と位置付け、学部共通の必須科目としている。具体的には、全学部の1年生を対象に、前期に「情報メディア入門」、後期に「コンピュータ入門」を開講している[1][2]。

本稿では、これら講義のうち、情報メディア入門の実践方法とその評価について述べる。

2 情報メディア入門の概要

情報メディア入門は、マルチメディアを活用したコミュニケーション技術とコラボレーション技術の習得を目的としている。本講義では、学生同士の教え合いを目的に、全学共通科目のクラスを学部混成の9つの班に分け講義を行っている。各班において、ソフトウェア情報学部の学生はグループの中でのリーダーシップをとる役割を期待されており、その

ために講義テキストを前週に配布し、予習してくるよう指導している。

具体的な講義内容としては、コミュニケーション技術の習得のためにインターネット上の各種のコミュニケーションアプリケーションの利用技術を習得させている。また、コラボレーション技術習得のためには、グループ作業によりホームページを作成する演習を7回かけて行わせている。これでは特に、ホームページの企画（企画書の作成）、取材（取材申し込みなどを含む）、実際の作成という一連の作業をグループで行わせることにより、マルチメディアコンテンツ作成における工程の理解なども実体験させている。

講義の実施体制はソフトウェア情報学部の教員が担当している。また講義の均質化、質の改善を目的に全学共通科目全体をコーディネートする組織を設けている。[1][2]

3 講義の評価

3.1 評価方法：アンケートによる評価

前述のような方針で実施した情報メディア入門の講義の内容を評価するため、全講義終了後に学生、全教員（講義担当教員を含む）に対し、自由解答方式のアンケートを実施した。また、講義担当教員に対し、各講義終了後に担当講義における感想、気付いた点についての報告を提出してもらった。各々の配布数、回収数は表1の通りである。

3.2 アンケート解答の内訳

講義内容は大きくコミュニケーションアプリケーションの利用とホームページ作成の2つに分けられるが、アンケートの解答は講義全体に対する意見と、ホームページ作成に対する意見とに大きく二つに分かれた。学生からのアンケートにおける各内容に対する肯定、否定的意見および要望の数は次項の表2の通りになった。

	ソフトウェア情報学部	看護学部	社旗福祉学部	総合政策学部
学生	113 (174)	142 (299)		
全教員	7 (51)	6 (46)	8 (44)	9 (47)
担当教員	57 (122)			

*担当教員は全講義に於ける終了報告の合計。()内が配布数

表1：アンケートの回収数

	講義全体に関する回答		ホームページ作成に関する回答	
	専門学部	専門学部以外	専門学部	専門学部以外
好評	5	7	10	27
不評	9	8	30	22
要望	22	20	36	58
合計	36	35	76	107

表2：学生の回答の内訳

3.3 講義内容の評価

(1) 講義内容の妥当性が確認された

全教員および学生の解答で講義内容に触れられたものでは、実践的である、情報社会において必要な技術を学べるといったものや、グループで作業が楽しかった、他の学部の学生と知り合うことができたといった肯定的な意見が多くあり、本大学で目的としている学部混成クラスによる一般情報処理教育の指導内容の方向性が的確なものであることが確認された。

(2) OS操作等の基本的知識の指導の必要性

主に専門学部以外の学生から、ログインの概念、ファイル保存、全角半角文字の違い、ホームディレクトリの概念といった基本的な考え、操作方法を教えて欲しいという意見が多かった。

これらの操作については、入学時に学生に対して行われる情報システム利用についてのオリエンテーションで指導済であるという前提で講義を開始したが、実際には指導が不十分であり、一般情報処理教育の講義でより多くの時間をかけて指導することが求められていることがわかった。

(3) 情報倫理教育の必要性

全教員からの意見にemailを書く上でのマナーやホームページ作成における著作権の問題、内容についてのモラル等の情報倫理の指導を求める意見が多かった。講義内では、時間の関係からこれらの指導は、課題を行う上で留意すべき事項としてネチケット等のリストを配布する程度の指導を行ったが、より多くの時間を使用して指導すべきであることがわかった。

(4) ホームページ作成方法 (HTML) の指導

学生からの回答として、ホームページの作成においてもっと時間をかけて詳しくHTMLの指導をしてほしいという意見が多かった。また全教員からの回答ではHTMLの学習は必要なく、ホームページエディタを利用すべきだという意見もあった。

3.4 講義運営の評価

(1) 講義進行が早い、課題が多い

学生からの回答で講義の進行が早い、課題の量が多すぎるといった意見が多かった。これは本大学の方

針として、積極的に学生に課題を出すようにしていることと、本講義が演習の講義であるために全体として学生に課される課題が多くなっているためである。

(2) 専門学部生への負担が大きい

専門学部生からの回答にグループ作業における専門学部生の負担が大きく不公平であるという意見が多かった。これは各班に1,2名の専門学部生を配置していたが、一人が初心者の場合もう一人に負担が集中する、基本的なことを何度も質問してくる専門学部以外の学生がいるといった理由からであり、よりわかりやすいテキストの作成が必要とされると共に、次の(3)でのグループ編成方法の改善が求められている。

(3) グループの編成方法への不満

学生からの回答に、グループ作業が楽しかったという意見があった半面、専門学部生でも初心者はいるのでこれを考慮してグループ編成をしてほしい、グループ編成を学生に自由にさせてほしいという否定的な意見もあった。グループ編成は第1回目の講義の課題を参考にグループ毎のスキルが平均するように編成を行ったが、まだ不十分な部分があることがわかった。

4 おわりに

本稿では、岩手県立大学で実施している専門学部を含む全学混成クラスにおける一般情報処理教育について報告を行った。実施した結果を評価する基準として、担当教官に対し講義終了後の終了報告の提出を、全教員、学生に対し自由回答方式のアンケートを実施した。

集計データから学部混成クラスによる講義および本学における一般情報処理教育の指導内容の有効性が確認された。しかし、現状以上の(基本操作、情報倫理)内容の指導も求められている一方で、学生は現在の講義内容の量でもかなりの負担になっているという問題があることも判明した。また、講義運営では修正すべき点がいくつかあることが判った。

今後は今回の評価を基に、学生が情報技術の進展を基盤としたより高度な情報化社会に適應できる一般情報処理教育の内容を構築していく予定である。

参考文献

- [1]小笠原直人, 布川博士, 市川尚, 鈴木克明: 岩手県立大学における一般情報処理教育の概念とその実践, 電気関係学会東北支部大会講演論文集(1998)
- [2]樽松理樹, 児玉英一郎, 南野謙一, 布川博士, 柴田義孝: 情報処理学会第59回全国大会講演論文集(1999)